

開催地名：東京都中野区	
開催日時	令和4年1月22日（土） 10:30～12:00
開催場所	中野区役所 7階会議室第8・9・10会議室
語り部	菅野澄枝 （宮城県仙台市）
参加者	中野区民 100名程度
開催経緯	<p>区での課題は、避難所の運営についてである。</p> <p>当区では年に1度程度、各避難所で避難所運営会議という形で、地域の避難所の運営本部の方と避難所運営についての協議を行っている。</p> <p>しかし、実際に大災害の経験がないため、中々実感が湧いてこないことや予想を超えた混乱が発生することも懸念される。</p> <p>そこで、実際に被災地に派遣された方のリアルな話を聞くことで、今後の避難所運営のあり方について参考にして頂きたい。</p> <p>また、避難所生活（運営）における立場の弱い方（女性・子ども・性的マイノリティー・高齢者・障害者等）についてどう考えていけばいいかお話しして頂きたいです。</p>
内容	<p>(1) 仙台市における東日本大震災当時の記憶</p> <p>私が住んでいる仙台市宮城野区は、沿岸部から内陸に向けて10キロほど入った地点なので、直接の津波被害はなかった。しかし、近隣にある奈良北川からの逆流、および、沿岸部の皆さんの避難といった影響は大きかった。</p> <p>また、地盤の関係で仙台市内でも宮城野区は最大震度を記録。全壊、半壊の世帯も多く出た。</p> <p>宮城野区では、当時の女性区長の発案により、総合防災訓練の際に女性による防災宣言を作ったり、防災組織について改めて考える活動が始まっていた。奇しくも震災が起こる9ヶ月前のことである。「女性であっても、子どもであっても、高齢者であっても、自分の大切な人を守るのは同じこと。全てを男の人の仕事にするのではない」という、当事者意識を重視したメッセージを中心に活動を広げていった。防災宣言を作り、国連の世界会議で発表させていただいたりといった諸々の活動が、現在のSBL、仙台市地域防災リーダーのひな形となっていった。</p> <p>(2) SBLについて</p> <p>防災は、自分一人で取り組むものではない。みんなが自分の問題と思い、力を合わせて取り組むことで大きな力となる。</p> <p>SBLは仙台市特有の地域防災の動きである。SBLの養成は仙台市が行っ</p>

	<p>ているが、実際の活動は町内会が主体であり、町内会を支援する組織である。現在は 694 人の SBL がおり、そのうち、177 人が女性だ。</p> <p>自主防災組織と協力し、その構成メンバーとして災害対策本部を運営したり、計画策定をしたり、平常時からの顔が見える関係作りも重要な業務といえる。やはり、災害時に初めて見た顔が指示をするよりも、気心の通じた人間が声がけをするほうが、何事もスムーズに行くと思う。SBL は実働部隊という側面はもとより、地域住民に防災活動を啓蒙していくことも重要な任務である。</p> <p>(3) お互いを思い合えるからこそ、自助の力が湧く</p> <p>災害時には、自助、公助、共助という考え方が一般的だが、自助というのは、「自分の力だけで自立してください」というのとは違うと思う。私たちは「地縁力」と呼んでいるが、地域の中で心を通わせて、何事に対しても他人事はない、という意識でもって助け合っていくことが肝要と思う。お互いのことを思い合える状況があつてこそ、自分で頑張る力が出てくる。地域というのは、そういった縁の積み重ねではないかと考えている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
開催地より	<p>地域の中での声がけの大事さを痛感した。かたよった訓練ではなく、若い人、高齢者それぞれの協力の仕方、理解度などを考える必要があると感じた。</p>